

平成23年8月31日

清水町議会議長 加 来 良 明 様

清水町議会産業厚生常任委員会  
委員長 原 紀 夫

## 所管事務調査について

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

### 記

1. 調査事項 町営育成牧場の現状と課題について

2. 調査期日 平成23年8月9日

3. 調査の結果

町営育成牧場の経営状況と課題を調査し、将来のあるべき姿を把握するため、担当課の説明を受け、その後、円山団地及び北清水団地の視察を行った。

### 【町営育成牧場の現状】

本町の牧場は、清水市街地から南西 15 kmの上羽帯地区にある円山団地と西北 5 kmの北清水地区にある北清水団地からなり、放牧地・採草地・飼料畑合わせて 772.7ha の面積を有し、生後 7 か月以上の育成牛の預託事業を町が行っている。

この牧場は、昭和 43 年から国の農業構造改善事業等を導入し、大規模な草地改良を進め、昭和 44 年に町内酪農家から育成牛の受け入れを行ったのが始まりで、本年で 43 年目を迎えている。

平成 22 年度受入頭数実績では、夏期放牧（5 月 20 日～10 月 20 日）で 1 日平均 1,962 頭、冬期舎飼（10 月 21 日～5 月 19 日）で 1 日平均 1,002 頭となっている。平成 23 年度は受入頭数枠を超えた申し込みがあり、一部は近郊の公共育成牧場へ受け入れをお願いしている。

従業員は、牧場長以下町職員 4 名、長期臨時職員 7 名、短期臨時職員（6 か月雇用）11 名の 22 名で、育成牛飼育や草地等の施設管理を行っている。

### 【十勝管内の公共育成牧場等の状況】

管内 19 市町村のうち本別町及び士幌町では、地元の農協が育成牧場を設置運営しており公共の育成牧場はないが、他の 17 市町村では公共育成牧場を設置している。

市町村が設置している牧場の管理運営状況は、町村が管理主体となっている牧場が 6 牧場、株式会社が 4 牧場、農協が 7 牧場となっている。また、今年 2 月現在の管内公共育成牧場使用料は、夏期放牧で 1 日当たり 180 円から 350 円と大きな差があり、本町は 260 円で上位から 3 番目、冬期舎飼では 500 円から 610 円で、本町は最上位の使用料となっているが、本町は使用料等の収入で運営経費を賄えていない状況が続いている。

### 【町営育成牧場の課題】

本牧場は、開設以来 43 年を迎え、畜舎や作業機械の更新、粗飼料の確保、従業員の確保など諸問題が山積している。

配合飼料が高騰しており、冬期舎飼用の飼料費削減のために、牧草やデントコーンを作付けし、一部の作業は農業サポートセンターに委託しているが、今後予想される牧場所有の作業機械の更新費用

などを考えると、全面委託した場合の費用対効果も試算し、総合的に判断していくべきである。また、牧場用地も購入飼料費用削減のために本年度取得したが、将来に向け取得計画を立てて、飼料の確保を図る必要があると思われる。

5年間の経営状況をみると人件費は年々増加しており、総経費の約4割を占めている。従業員のほとんどは臨時的任用であるため、若い人の応募はほとんどなく年配者の割合が非常に高くなっており、このままでは従業員の確保が難しい状況も見込まれる。

近年、多くの公共牧場は管理主体を町から他団体に移行している状況にある。本町においても、指定管理者制度導入によるコスト削減とサービス向上について鋭意検討していくべきである。